

## 第 72 回 日本 PTA 全国研究大会川崎大会 研修報告

富士市 PTA 連絡協議会 理事  
富士市立岳陽中学校 PTA 会長  
佐藤祐樹

### 1 研修概要

日時 令和 6 年 8 月 23 日から令和 6 年 8 月 24 日  
会場 川崎市とどろきアリーナ  
テーマ 社会の大きな変化を学び、進化を考える PTA 活動  
自己肯定感を高め合い、活力ある PTA 活動  
誰も取り残さない、居場所を大切にする PTA 活動  
スローガン ウェルビーイングの実現を、川崎の地から ～活かそう「縁」のカ～

### 2 スケジュール概要

#### 23 日

14 時 「全国の PTA の縁をいかし、力強く進める教育環境改善への提言」  
太田敬介(日 P 会長)・内田由紀子(京大教授)  
「誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて」  
西野博之(NPO フリースペースたまりば理事長)  
16 時 05 分 「大人が変われば子供も変わる!ウェルビーイングの社会実装」  
土屋美樹(文科省生徒指導第一係長)  
吉田田タカシ(トーキョーコーヒー代表)  
17 時 「多様性を認め合う心豊かな社会を目指して」  
塩沢節子  
上村和弘(元川崎市宮前区 P 連会長)  
18 時 1 日目終了

#### 24 日

8 時 30 分 関東ブロック大会  
9 時 10 分 「子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」  
親野智可等(教育評論家)  
クローラン悦子(川崎市立南加瀬小学校 PTA 会長)  
10 時 20 分 地域や社会に広げるウェルビーイング!住み続けたいまちへ  
堀潤(総合司会)  
親野智可等(教育評論家)  
宇田直人(石川県 P 連会長)

- 11時10分 「ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ」  
前野マドカ (EVOL 株式会社)
- 12時40分 大会終了

### 3 所感

第72回日本PTA全国研究大会が川崎市とどろきアリーナで開催され、2日間の充実したプログラムに参加しました。本大会のテーマは「社会の大きな変化を学び、進化を考える PTA 活動」「自己肯定感を高め合い、活力ある PTA 活動」「誰も取り残さない、居場所を大切にする PTA 活動」とされ、現代の教育環境における重要な課題に焦点を当てていました。以下は、参加を通じて得られた所感を詳しく述べます。

#### 1. 開会の黙とうと大会の意義

大会の開始にあたって、能登半島の被災者の方々に対する1分間の黙とうが行われました。この瞬間、私たちは社会的な連帯感と共感の重要性を深く感じました。災害の影響を受けたの方々に対する支援の気持ちを新たに、私たちの活動がいかに社会全体の支援とつながっているかを再認識しました。

#### 2. 初日の基調講演とセッション

##### 2.1 太田敬介氏の基調講演

初日の基調講演では、日本PTA会長の太田敬介氏が「全国のPTAの縁をいかし力強く進める教育環境改善への提言」について語りました。太田氏は、昭和22年に出版されたPTA結成の手引書に言及し、家庭、学校、社会が連携して子どもたちを育てることの重要性を説きました。特に「社会教育団体」としてのPTAの役割を強調し、「個人の幸福な人生と持続可能な社会の実現」というビジョンが示されました。これは、私たちが日々の活動を通じて目指すべき大きな目標であり、地域や学校との連携を深める重要性を再確認する機会となりました。

##### 2.2 内田由紀子氏の講演

続いて、京都大学未来社会研究院の内田由紀子氏が「ウェルビーイングとは？」というテーマで講演されました。内田氏は、ウェルビーイングを「快樂」ではなく「生きがい」に近い概念とし、人間が幸福に生きるためには、自己の幸せだけでなく他者の幸せや「場」の幸せも考えるべきだと述べました。教育現場での支援が子どもたちの主観的幸福感にどれほど影響を与えるか、また、社会全体での信頼関係の重要性について深く考える機会となりました。特に、学校の楽しさや支え合いの文化が子どもたちの幸福感に大きく寄与することが示され、これからの教育活動に生かすべき具体的な指針を得ることができました。

##### 2.3 西野博之氏の講演

西野博之氏の講演では、「川崎市子ども権利条例」の実施について詳しく説明されました。「子ども市民」「大人市民」という概念のもと、子どもたちは「すでに人間である」という認識の重要性が強調されました。また、日本における教育や子どもの自殺問題に触れ、自己肯定感の低さが子どもたちにどれほどの影響を与えているかが示されました。特に、「ちゃんと」「ふつう」「正しさ」「完

壁」を求める家庭が子どもたちの不安を助長し、「非認知能力」を育むことが未来の教育において重要であるとの指摘がありました。この講演を通じて、子どもたちの幸福を支えるためには大人自身の意識改革が必要であることを痛感しました。

#### 2.4 土屋美樹氏と吉田田タカシ氏のセッション

土屋美樹氏と吉田田タカシ氏による「大人が変われば子供も変わる!ウェルビーイングの社会実装」では、不登校問題への対応策や教育における「正解信仰」の問題が議論されました。土屋氏は、不登校の現状やそれに対する多様な対応策を提案し、教育の場における支援の多様化の重要性を説きました。一方、吉田氏は「正解信仰」を捨てるのが教育の本質であり、子どもたちが自分の力で成長するためには大人の支援が不可欠であると述べました。このセッションを通じて、教育現場での実践的なアプローチと、子どもたちが自らの力で未来を切り開くための支援のあり方について具体的な指針を得ることができました。

### 3.2 日目のセッションと学び

#### 3.1 親野智可等氏の講演

2 日目の講演では、教育評論家の親野智可等氏が「子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」について語りました。親野氏は、朝型と夜型の違いについて、遺伝的な要素が大きいことを指摘し、家庭での教育においても個々の特性を尊重することが重要であると述べました。特に、叱らずに工夫を楽しむことが自己肯定感を育むための鍵であり、良い部分を見つけて褒めることの重要性が強調されました。家庭での関係性が子どもたちの成長にどれほど影響を与えるかを学ぶ貴重な機会となり、具体的なアプローチ方法について多くの示唆を得ることができました。

#### 3.2 前野マドカ氏の講演

前野マドカ氏は「ウェルビーイングを社会に広げることの大切さ」について講演し、社会全体でウェルビーイングを推進することがどれほど重要であるかを説明しました。前野氏の講演では、個々の幸福が全体の幸福に繋がるという視点から、社会全体での取り組みの必要性が強調されました。これにより、地域や学校での取り組みがより広い社会にどのように影響を与えるかを考える機会となり、私たちの活動の意義を再認識しました。

### 4. 総括と今後の展望

本大会を通じて、PTA 活動の本質は「支え合いの文化を育むこと」「子どもたちが幸福で充実した人生を送れるような環境を作ること」「自分で決める力を育むこと」にあると強く実感しました。地域や学校との連携を深めることが、子どもたちの成長を支えるためには不可欠であり、そのためには私たち一人一人が意識的に行動する必要があります。

また、子どもたちが自分の力で未来を切り開くためには、大人が自身の教育観や支援方法を見直し、子どもたちの特性を尊重することが重要です。特に、家庭での関係性が子どもたちの自己肯定感に大きく影響することを再認識し、叱らずに工夫を楽しむアプローチを実践することが求められます。

大会での講演やセッションを通じて、学校に通うことだけがすべてではなく、地域社会全体が子ども

もたちの成長と幸福に関与する必要があるという考えが深まりました。これからの時代においては、地域社会が一体となって子どもたちを支え、彼らの自己肯定感を育むための環境を整えることが求められます。

私が富士市立岳陽中学校 PTA 会長として取り組んでいる地域活動において、今回の大会で得た知見をどのように活かすかが重要です。地域活動として福祉推進会やまちづくり協議会の役員を通じて、地域と子どもたちをつなぐ活動を進めることが、教育環境の改善や子どもたちの幸福にどれほど寄与するかを実感しました。

私たち PTA としては、地域との連携を強化し、地域社会全体で支え合いの文化を育む取り組みを進めていく必要があります。また、地域活動においても、子どもたちが自分の力で未来を切り開くための支援を行い、地域社会全体での幸福の実現に向けて努力していきたいと考えています。

大会で得た知見を基に、地域と学校が連携しながら、より良い教育環境と支援体制を整えるための具体的なアクションを起こし、地域社会総がかりで子どもたちの成長を支える取り組みを進めていきたいと思えます。これからも、地域社会と連携しながら、子どもたちの幸せを実現するための活動を続けていきたいと考えています。